

漁港周辺地区における現状と課題

茅ヶ崎海岸グランドプラン推進会議
(平成18年4月1日)

1: 茅ヶ崎漁港の現況把握

(1) 漁港及び周辺の施設概要

① 漁港施設の概要

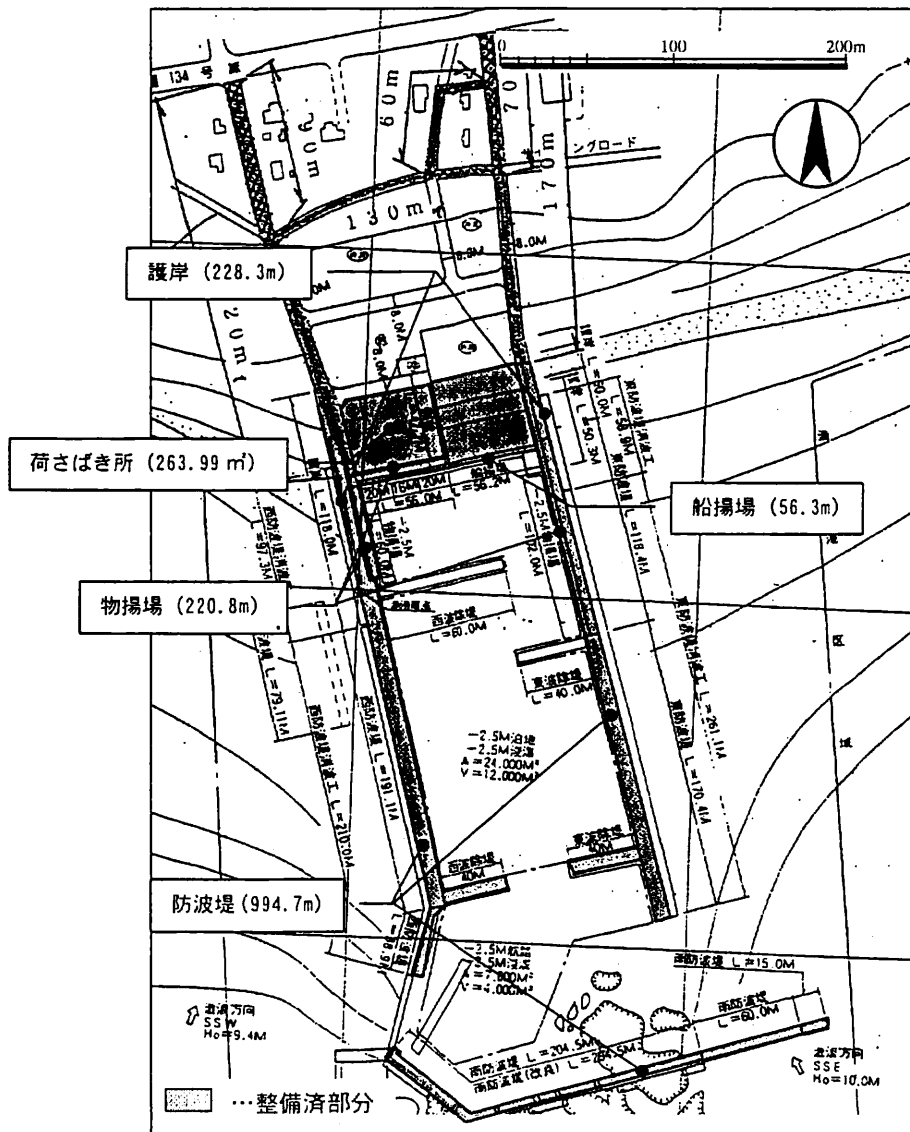
茅ヶ崎漁港における漁港関連施設の整備状況及び、第9次漁港整備計画における計画平面図を示す。

現在漁港内には、荷さばき所、冷凍施設、冷蔵施設、貯氷施設が整備されており、また、物揚場、船揚場、東・西防波堤、東・西波除堤、南防波堤が整備されている状況にある。なお、今後も防波堤及び波除堤の整備が行われるとともに、臨港道路が整備される予定にある。

表 1.1 漁業関連施設の整備状況

資料：港勢調査表

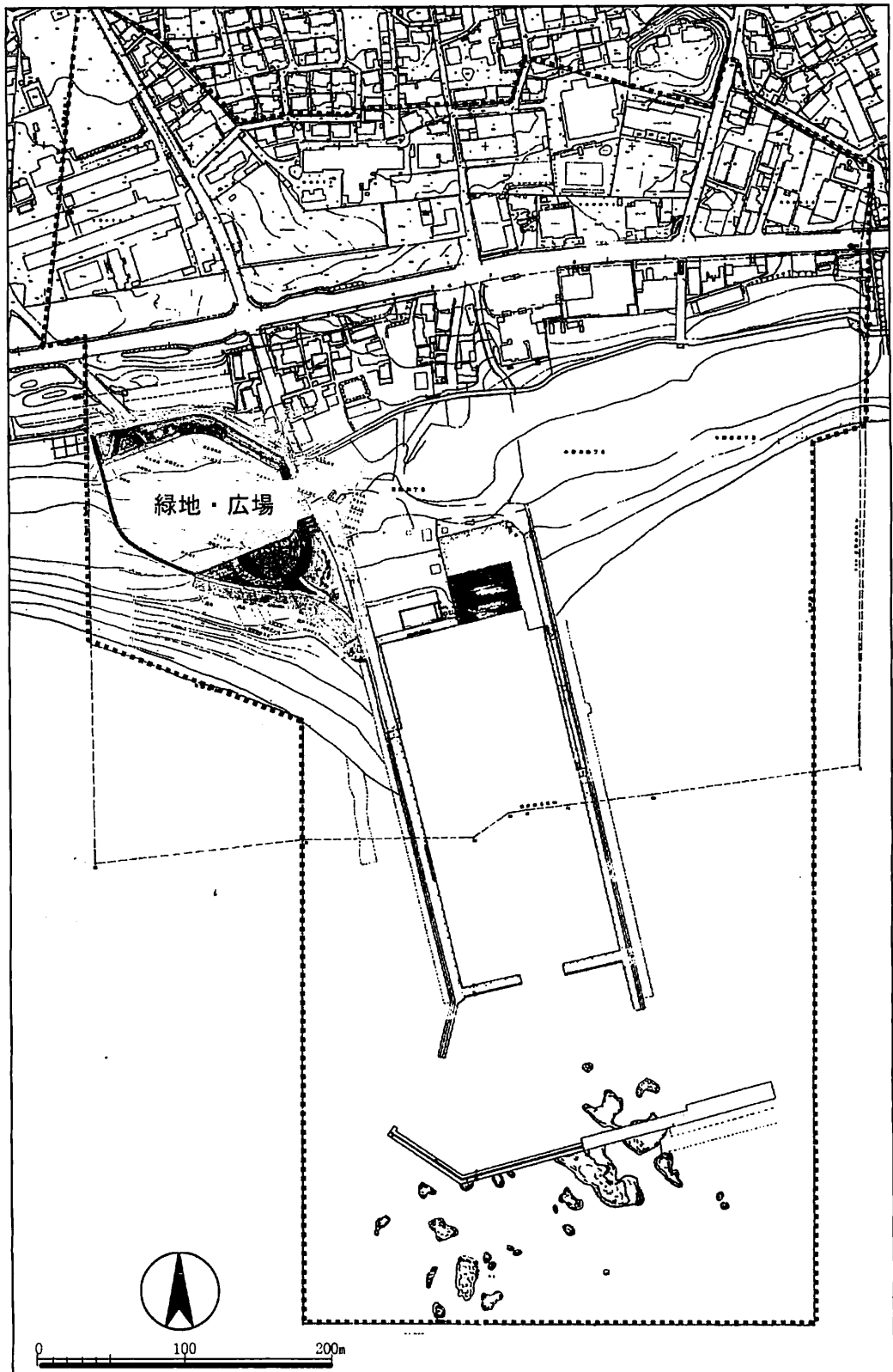
	荷さばき所	冷凍	冷蔵	貯氷
施設数	1	1	1	1
施設規模	263.99 m ²	13 トン/日	228 トン	36 トン/日



資料：茅ヶ崎市資料

図 1.1 茅ヶ崎漁港の整備計画及び現在の整備状況

また、以下に示すように、現在漁港西側では、海岸環境整備事業により緑地・広場の整備が進められている。



資料：茅ヶ崎市資料

図 1.2 緑地・広場の整備計画

②漁港周辺の施設概要

茅ヶ崎漁港の周辺における漁業及びレクリエーションに関連する施設の位置を図1.3に示す。また、これらの施設の概要について以下に整理する。

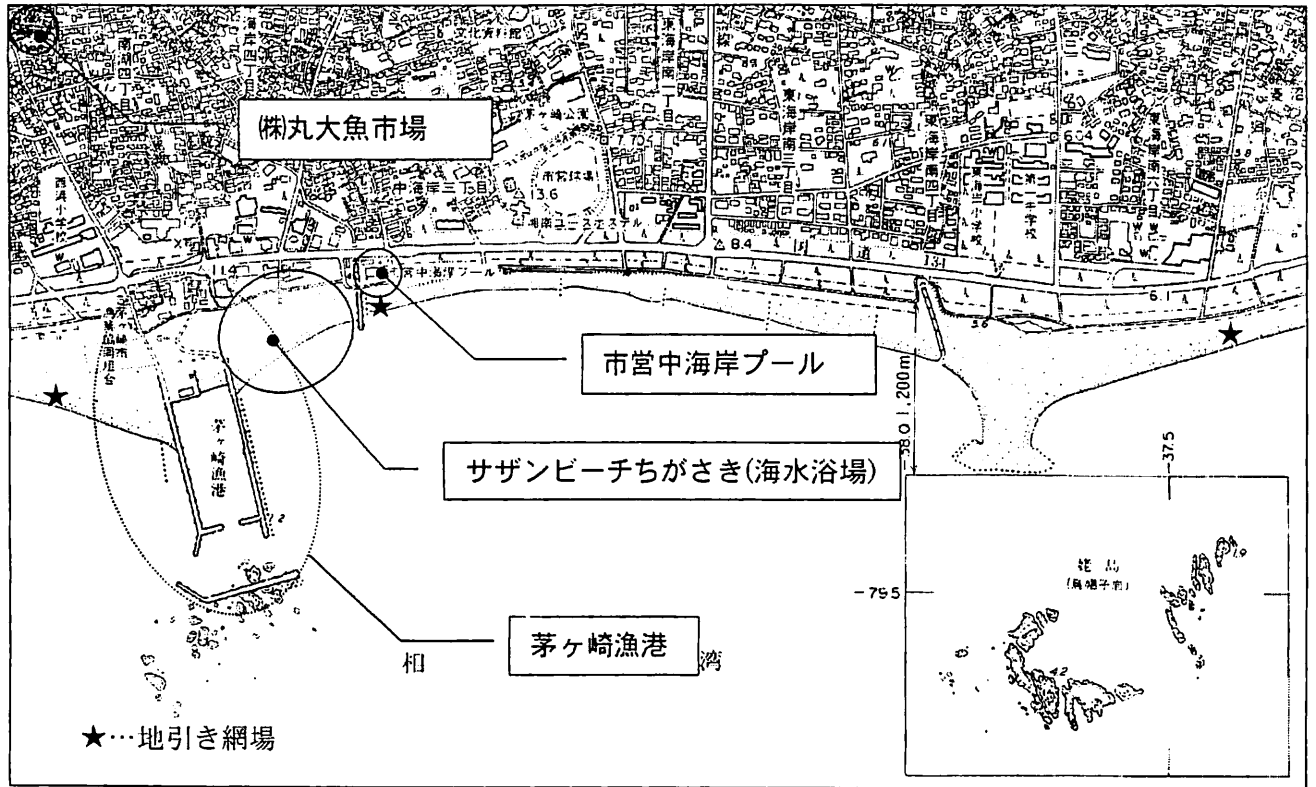


図 1.3 茅ヶ崎漁港周辺の施設の立地状況

a) サザンビーチちがさき（海水浴場）

サザンビーチちがさきの利用状況について以下に示す。年別の入込客数をみると、平成2、3年の60万人超をピークに、その後は年による変動は大きいものの、多い年でも35万人台にとどまっていたが、平成12年は若干増加し、42万人台まで回復した。

しかしながら、その後は、減少傾向にある。

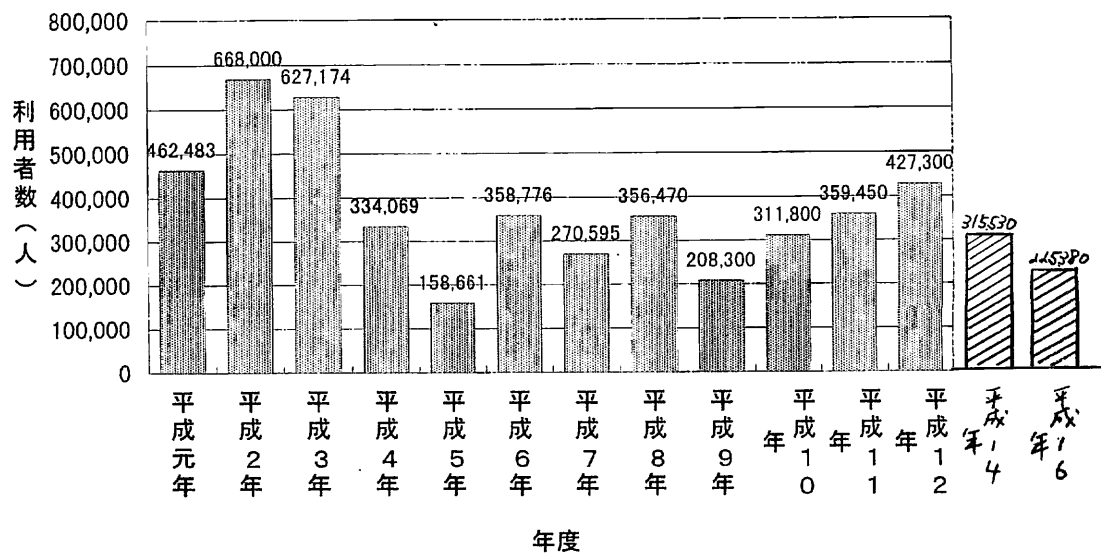


図 1.4 年間入込客数の推移



写真 1.1 海水浴場開設時のサザンビーチちがさきの様子

㊦ その他観光・イベントの現況

茅ヶ崎市の観光入り込み客数は、図-1.6 に示すとおり、日帰り客がほとんどとなり、経年変化で見ると減少傾向に有ることがわかる。

また、漁港周辺では、様々なイベントが開催されており、これらの概要について以下に整理する。

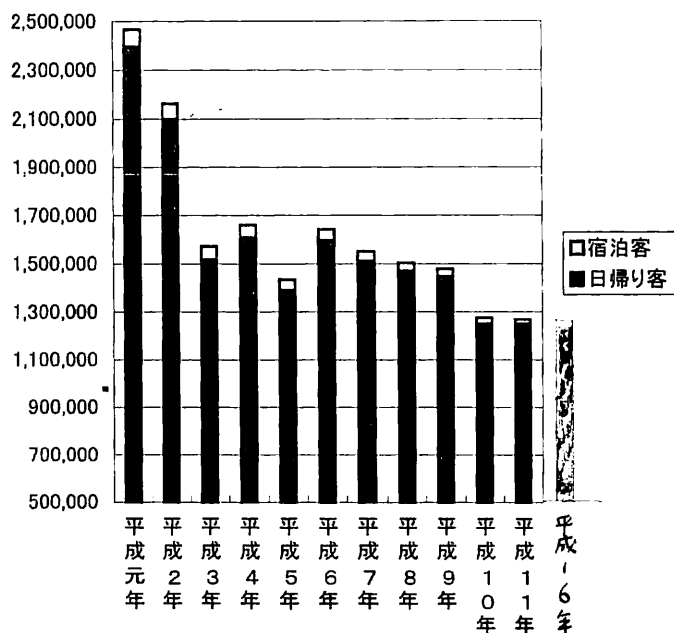


図-1.6 茅ヶ崎市における観光入り込み客

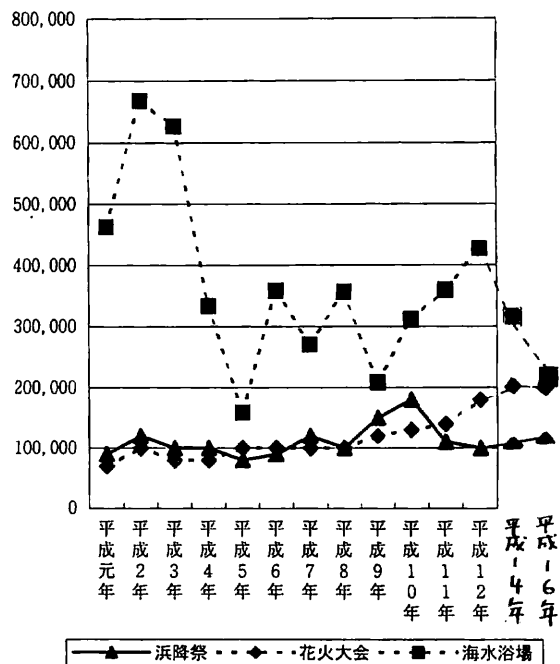


図-1.7 年別イベントの入り込み客数

・浜降祭

浜降祭は、毎年7月20日早暁、市内神社及び寒川神社などの神輿40基余りが茅ヶ崎海岸に結集して勇壮に乱舞し、海岸を渡御する茅ヶ崎の伝統行事である。近年特に盛んになり、昭和53年には県無形民俗文化財に指定され、毎年十数万人の観客が日の出前からつめかけ、活気あふれる暁の祭典は関東近県の人々に親しまれている。



写真1.2 浜降祭の様子

年度別入込み客調査

(単位:人)

区分 年度	大岡越前祭				その他の イベント	浜降祭			花火大会	海水浴場				その他の 入込み客 (県報告)	合計	日帰り客	宿泊客 (県報告)
	観客	産業フェア		湘南祭		観客	御輿数			6月	7月	8月	合計				
		土曜日	日曜日				大人	子供									
元	80,000					90,000	33	5	70,000	1,330	42,488	418,665	462,483	1,764,175	2,466,658	2,395,415	71,243
2	80,000	20,000	40,000			120,000	31	6	100,000	200	238,418	429,382	668,000	1,194,904	2,162,904	2,099,983	62,921
3	80,000	20,000	40,000			100,000	32	5	80,000	1,730	169,915	455,529	627,174	685,000	1,572,174	1,518,362	53,812
4	70,000	30,000	30,000			100,000	33	5	80,000	642	77,137	256,290	334,069	1,074,312	1,658,381	1,607,674	50,707
5	80,000	20,000	40,000			80,000	33	5	100,000	3,030	45,440	110,191	158,661	1,015,512	1,434,173	1,390,605	43,568
6	90,000	20,000	50,000	5,000		90,000	32	6	100,000	640	154,756	203,380	358,776	998,137	1,641,913	1,596,831	45,082
7	80,000	20,000	40,000	20,000		120,000	33	6	100,000	1,730	71,065	197,800	270,595	959,356	1,549,951	1,509,455	40,496
8	90,000	20,000	40,000	85,000		100,000	33	5	100,000	720	90,600	265,150	356,470	772,240	1,503,710	1,470,174	33,536
9	95,000	10,000	40,000	50,000		150,000	33	7	120,000	3,800	49,100	155,400	208,300	854,933	1,478,233	1,448,738	29,495
10	95,000	10,000	40,000	30,000		180,000	33	8	130,000	5,600	109,800	196,400	311,800	1,275,348	2,022,148	1,996,616	25,532
11	100,000	11,000	42,000	97,000		110,000	33	7	140,000	2,200	126,950	230,300	359,450	1,267,705	2,074,155	2,056,012	18,143
12	100,000	13,000	40,000	98,000	100,000	100,000	34	6	180,000		163,700	263,600	427,300	1,889,692	2,894,992	2,872,251	22,741
13	95,000	12,000	40,000	98,000		110,000	33	4	190,000		180,300	128,800	309,100	1,129,565	1,931,665	1,912,502	19,163
14	60,000	40,000	12,000	119,000		110,000	33	4	200,000		101,400	214,130	315,530	1,001,733	1,806,263	1,788,589	17,674
15	86,000	30,000	35,000	97,000		110,000	34	4	210,000		35,220	144,800	180,020	1,749,432	2,432,452	2,415,578	16,874
16	91,000	31,000	36,000	95,000		130,000	34	4	200,000		87,730	137,650	225,380	1,258,487	1,999,867	1,983,783	16,084
17	95,000	33,000	40,000	120,000		130,000	34	4	220,000		48,430	147,650	196,030		565,000	565,000	
18														0	0	0	
19														0	0	0	
20														0	0	0	
21														0	0	0	
22														0	0	0	
23														0	0	0	
24														0	0	0	
25														0	0	0	
	A			B	C	D			E	F	G	H	I=FGH	J	K=L-M	L=ABCDEIJ	M

H12のその他イベントはサザンオールスターズ茅ヶ崎ライブ
H12. 8の海水浴客には茅ヶ崎ライブの大型ビジョン2万人を含む

・花火大会

毎年8月初旬に、納涼花火大会がサザンビーチちがさき周辺で行われ、夏の風物詩として好評を博しており、市内外から十数万人の見物客でにぎわう。

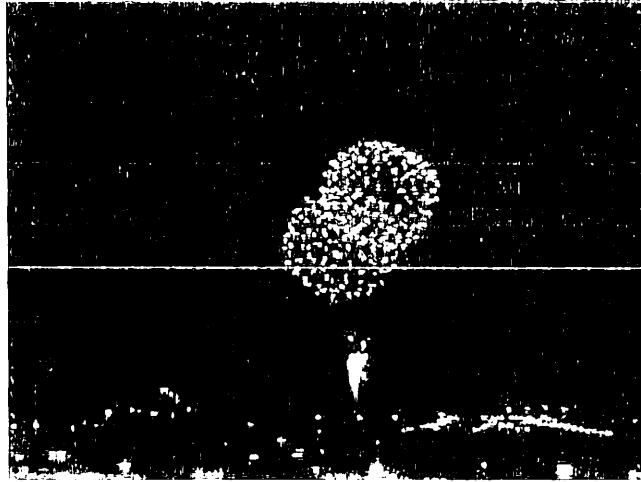


写真 1.3 花火大会の様子

・湘南祭

「市民が本当に楽しみ、参加できるイベント」を合言葉に1994年にスタートしたイベントとしてゴールデンウィークに行われている。観光資源である海岸を有効に利用し、スポーツ・ステージ・アート・自由参加イベント（フリーマーケット等）が融合したイベントとなっている。



写真 1.4 湘南祭の様子

(2) 漁業生産の概況

平成11年における茅ヶ崎漁港の属地陸揚量は122トンで、属地陸揚金額は106百万円となっている。平成6年から11年までの推移をみると、属地陸揚量についてはほぼ横這いであるが、平成9年がやや大きくなっている。また、属地陸揚金額においては、年次により大きな変動がみられる。一方、属人陸揚量は、平成9年以降大幅に増加しており、平成10年には属地陸揚量の8倍近くとなっている。これは、あじ・しらすの豊漁に起因していると思われる。

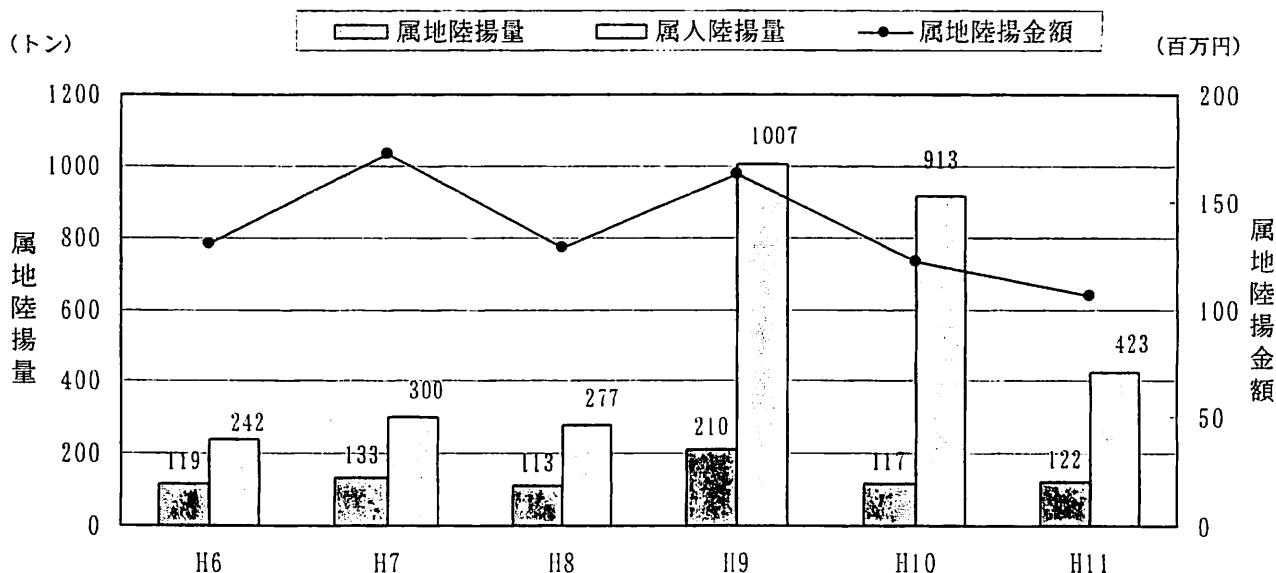
また、属地陸揚量により属人の方が毎年2倍以上多くなっているのは、茅ヶ崎市の漁業者が市外に相当程度陸揚げしていることを示している。

なお、平成11年において漁業種類別にみると「地びき網」が78トン(64%)と最も多く、次いで「ひき寄せ網」が30トン(25%)、「その他の刺し網・流し網」が8トン(7%)となっている。また、魚種別では「しらす」が69トン(57%)と最も多く、次いで「あじ類」、「さば」がそれぞれ15トン(13%)、「その他の魚類」が7トン(6%)となっている。

表 1.4 漁業生産状況の推移

	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
属地陸揚量 (トン)	119	133	113	210	117	122
属地陸揚金額 (百万円)	130	172	128	163	122	106
属人陸揚量 (トン)	242	300	277	1,007	913	423

資料：港勢調査表



資料：港勢調査表

図 1.8 漁業生産状況の推移

(3) 漁港の港勢概況

平成10年における登録漁船隻数は65隻(354総トン)で、利用漁船は62隻(347総トン)で、遊漁兼業漁船隻数は38隻である。

登録漁船隻数は、微減少傾向であるが、総トン数は微増加傾向にあり、徐々に大型化が進行している。

表1.9 登録漁船勢力の推移

	動力(総数)		動力(3ト未満)		動力(3~5ト)		動力(5~10ト)	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
平成6年	70	325	34	42	19	83	3	26
平成7年	67	334	30	35	19	83	3	26
平成8年	68	347	30	34	19	84	3	26
平成9年	66	357	28	34	18	79	3	26
平成10年	65	354	28	35	17	75	3	26

	動力(10~20ト)		動力(20~50ト)		遊漁兼業漁船	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
平成6年	14	174	0	0	41	278
平成7年	15	190	0	0	41	293
平成8年	16	203	0	0	39	301
平成9年	17	218	0	0	38	307
平成10年	17	218	0	0	38	307

資料：港勢調査表

2 土地利用・所有の現況把握

茅ヶ崎漁港周辺の法規制及び土地利用の状況として、都市計画等の法規制における区域設定及び、土地所有の状況、さらには施設用途の状況について以下に整理する。

(1) 法規制

① 都市計画等の区域設定

茅ヶ崎漁港周辺の都市計画等における区域設定の状況について整理したものを以下に示す。

漁港背後の国道を挟んだ両側の区域は、都市計画において第一種住居地域に指定されており、その背後は第一種低層住居専用地域に指定されている。また、漁港の海岸部分は漁港区域の他に海岸保全区域にも指定されており、その両側の区域は都市公園区域に指定されている。

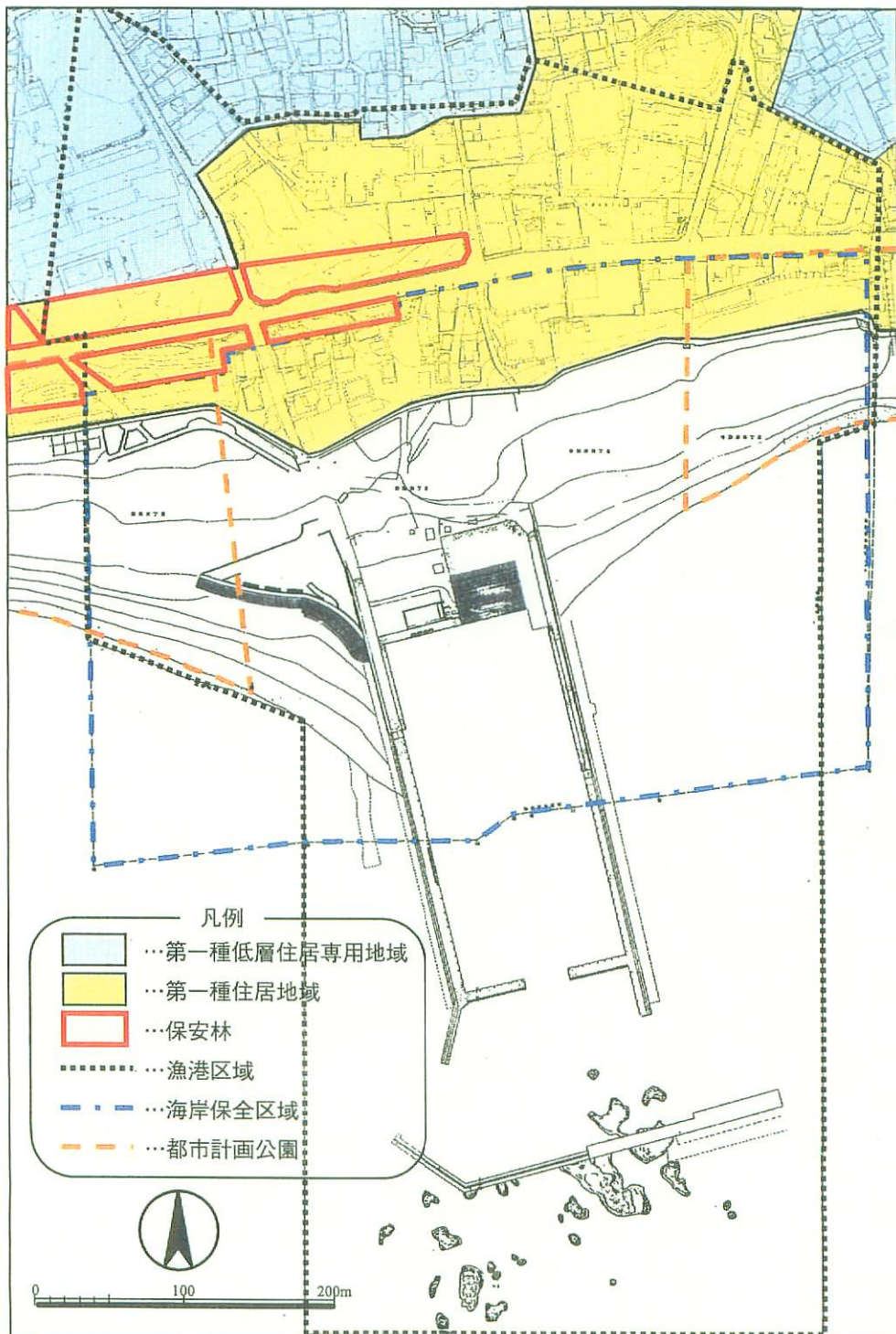


図 1.14 都市計画等の区域設定状況

②土地所有

漁港背後の土地所有の状況について整理したものを以下に示す。

計画地の大部分は国有地となっているが、フィッシュセンターより東側については、国道沿線が私有地、その南側が市有地及び県有地となっている。

なお、国有公共空地の占用地域については、大蔵省より、その使用目的、立地条件等の現況からみて、用途廃止のうえ、引継の処理促進を図る必要があると指摘を受けている。

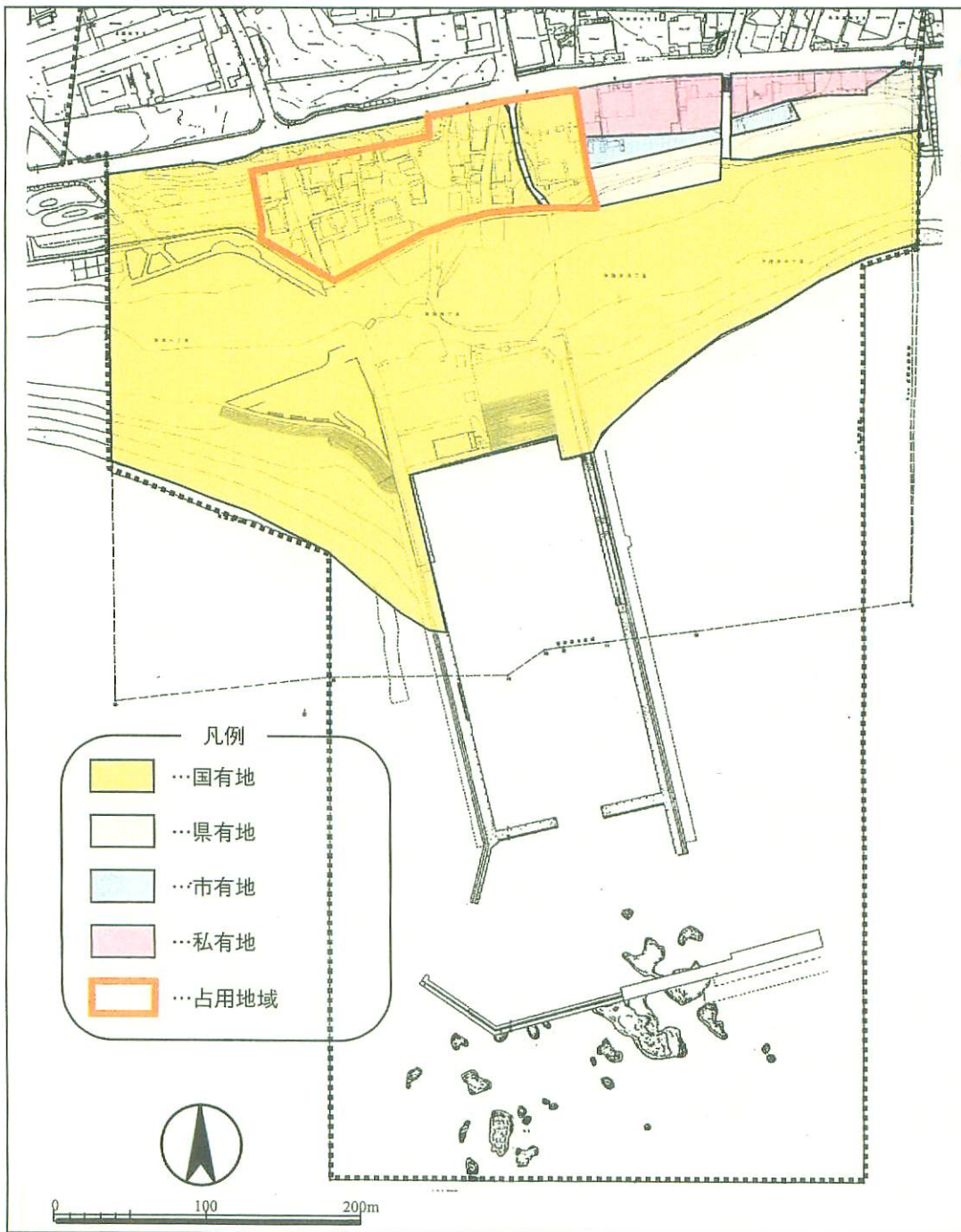


図 1.15 土地所有の状況

(2) 施設用途

茅ヶ崎漁港背後に立地している施設の用途について整理したものを以下に示す。

建物の用途としては、住宅が最も多いが、民宿・船宿、倉庫等の漁業・遊漁に関連した施設も多く見られ、国道沿いにはレストランなどの商業系の施設が多く見られる。

また、海岸保全区域内における夏期一時占用状況について以下に示す。前面は、海の家、シャワー、管理事務所といった、利便施設の占有が見られる。またサイクリング道路を挟み、背後においては、駐車場等の利用となっている。

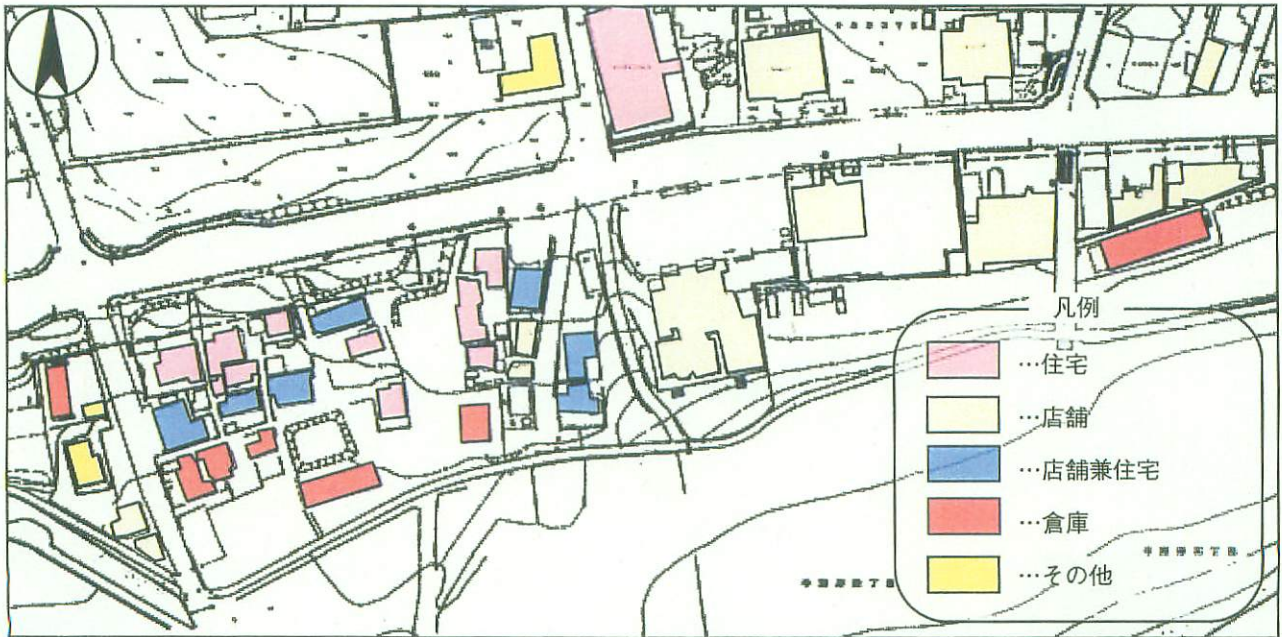


図 1.16 施設用途の状況

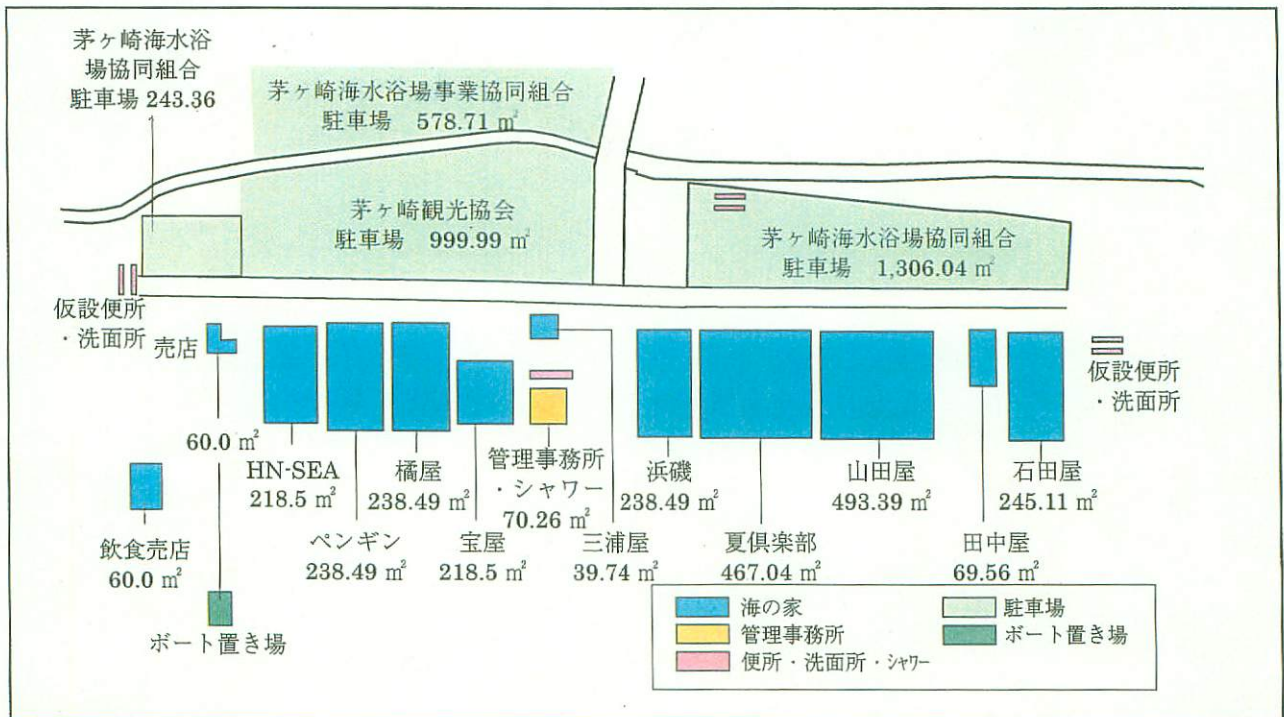


図 1.17 サザンビーチちがさき背後の施設状況

○漁港施設の概要

- ・海岸環境整備事業により、約 1.4ha の緑地広場が計画され事業が進められている
- ・現在、県の無形文化財である浜降祭の祭場として使用されている

○土地利用・所有の現況

- ・漁港区域、海岸保全区域に指定されている区域内の国有地に住宅、店舗、倉庫等が立地している

○占有者の意向

- ・ほとんど全員が払い下げを望んでいる
- ・下水道や道路等の基盤整備への要請が高い

○漁港周辺の施設概要

- ・サザンビーチには、年間 **23**万人 (H16) が訪れている
- ・湘南祭、花火大会などのイベントが行われている。
- ・隣接する市営中海岸プールは老朽化が進んでいるとともに、海岸侵食による被害も出ている

○漁港施設の概要

- ・荷捌所、冷凍施設、冷蔵施設、貯氷施設及び外郭施設が整備されている
- ・漁港内道路、外郭施設の整備が計画されている

○漁業生産の概況

- ・陸揚量はほぼ横這い傾向にある
- ・漁業種類別の陸揚量は、「地引き網」が 60% を占めている
- ・漁種別の陸揚量は、「しらす」が 36% を占めている

○漁業就業者、漁協及び組合員の概況

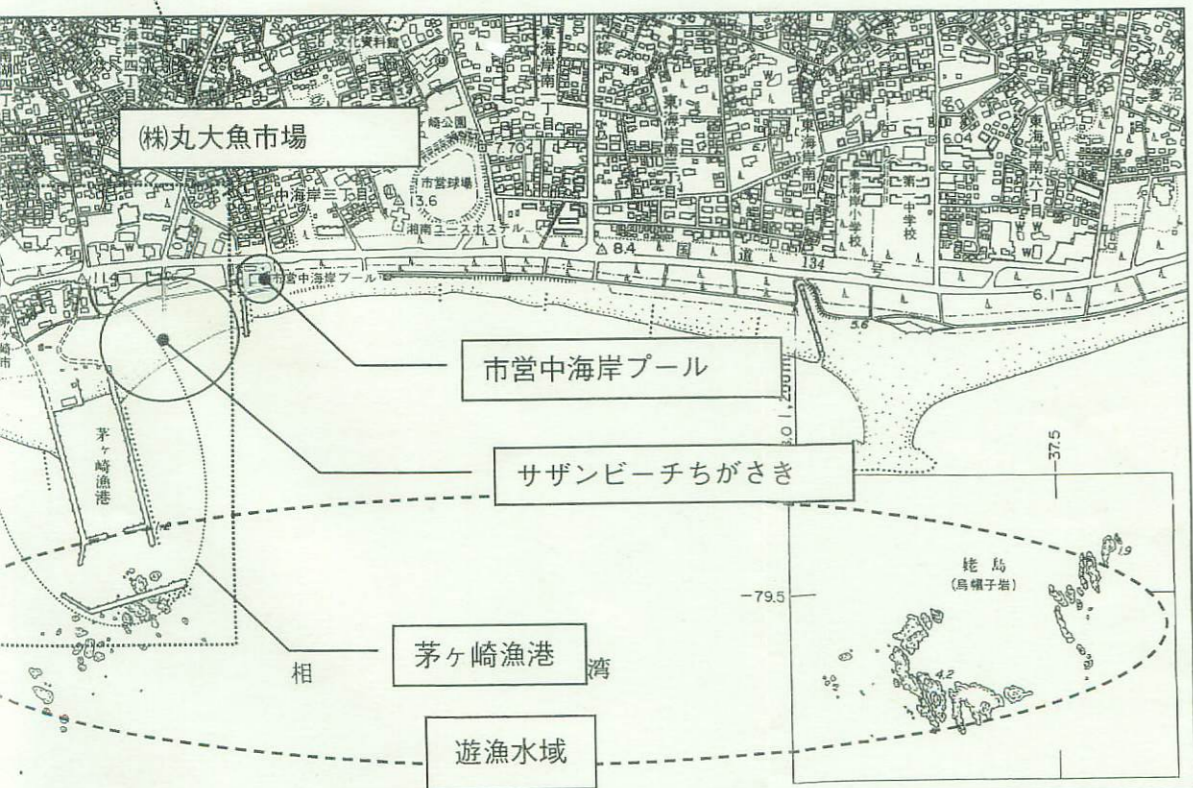
- ・漁協の組合員は減少傾向にある
- ・若中年の漁業者の割合が比較的高い

○漁港の港勢概況

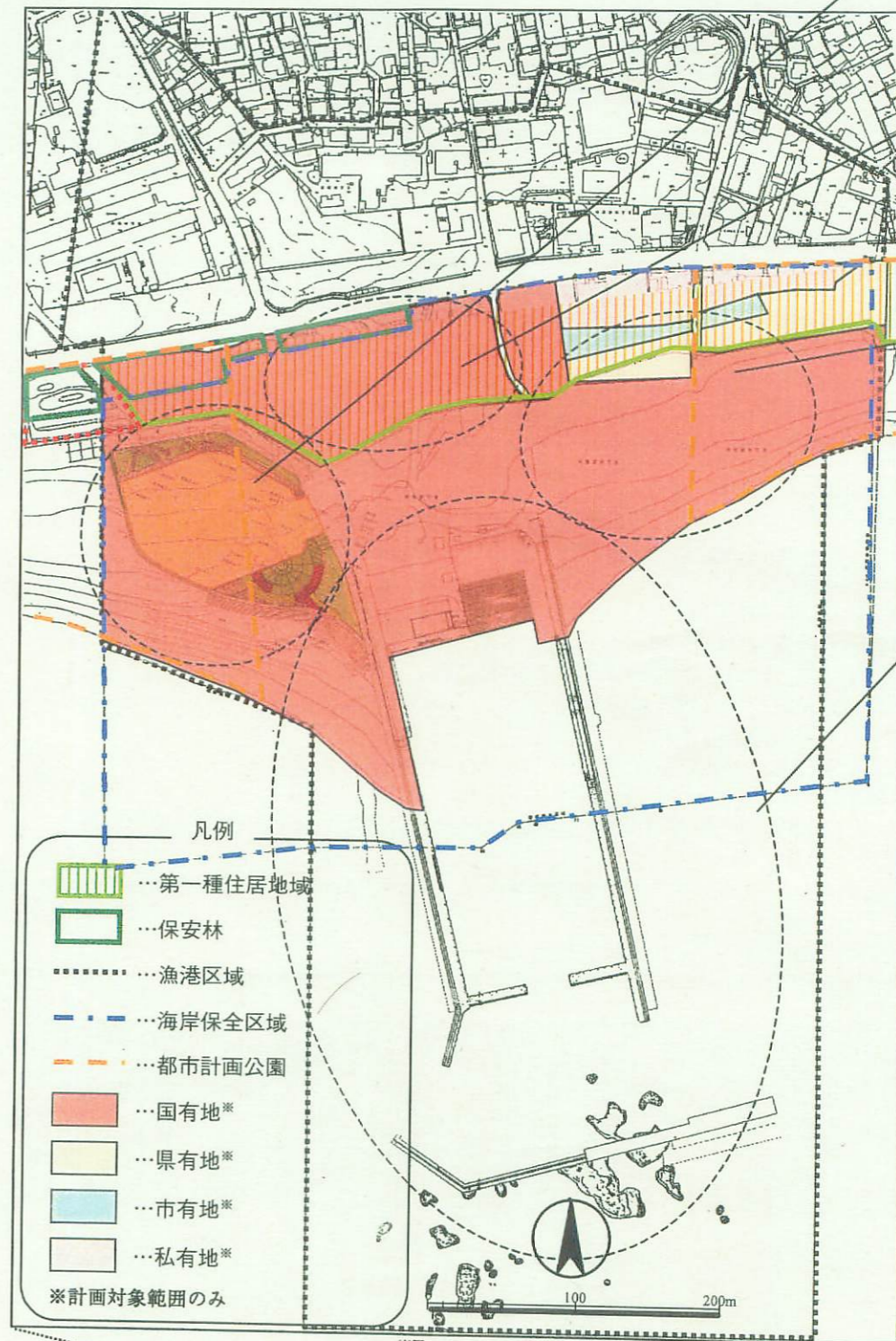
- ・登録漁船、利用漁船、遊漁船は、いずれも微減少傾向にあるが大型化の傾向も見られる

○遊漁の概況

- ・茅ヶ崎市は県内有数の遊漁が盛んな地域であるが、最近、茅ヶ崎市における遊漁者数は減少傾向にある



■漁港及び漁港周辺の現況



漁港周辺地区における現状と課題

区 分	現状及び課題
漁港背後地の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・民家、レストラン、釣り宿等が散在し、一部、未占用の国有地もあるが、全体として土地の有効活用が図られていない。 ・港湾施設の北側国有地（未利用地）については、ごみの散乱や老朽化した倉庫等がある。 ・休日の漁港内の堤防等は、釣り客で混雑しており、漁港内道路には釣り客の違法駐車がある。
交通・駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して本地区への直接的な公共交通アクセスが乏しい。 ・国道134号は、4車線化の工事が行われており、茅ヶ崎市域につきまちは、18年度内に完成するが、現時点では、当該地区がボトルネックとなり、渋滞を発生させている。これにより、生活道路への通過交通の流入がある。 ・近隣に西浜駐車場があるが、夏期の海水浴シーズンには、駐車場が不足し、周辺市街地への違法駐車が多い。 ・サイクリングロードを活用した自転車の貸し出しサービスを行っていたステーションがあったが、現在は廃止されている。
観光・娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・浜降祭（13万人）及び花火大会（22万人）の入り込み客は、微増加傾向にあるが、湘南祭（12万人）は、近年増加を続けている。 ・海水浴客（19万人）については、気象に左右されるが、平均的には減少傾向にある。 ・国道134号沿いに商業施設の集積があるが、レストラン系が多く、観光・娯楽施設として機能しているのは、一部ホテルに限られている。 ・年間を通してサーファー、釣り客が利用し、特に夏場は海水浴客で賑わっている。海浜ルールブックの作成等により、利用調整を行っているが、マリンスポーツ活動者や釣り客と漁業者とのトラブルが完全には解消していない。 ・中海岸市営プールは、老朽化し、規模も小さく、海岸侵食による被害も出ている。 ・海の家については、浸食対策や景観上の課題もある。

<p>利便施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆便所は、簡易的な施設があるのみである。 ・ 街灯施設は、ほとんど設けられていない。 ・ 海岸部のサインは、少なく、統一性がない。 ・ 海岸部にゴミ箱が設置されているが、オーバーフローしている状況が多い。
<p>漁業関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸揚量は、ほぼ横ばい傾向にある。 ・ 陸揚金額は年次により、大きな変動がある。 ・ 漁業種類別の陸揚量では、「地引網」が60%、「ひきよせ網」が25%を占めている。 ・ 漁業協同組合員数は、減少傾向にある。 ・ 登録漁船隻数及び利用漁船隻数は、微減少傾向にあるが、総トン数では微増加傾向にある。
<p>景観等デザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道134号沿線の建物や海の家等において本地区全体が統一したコンセプトにより、デザイン化されていない。 ・本地区は、国道134号から直接、海浜を臨むことができる貴重な景観資源を有しているが、一部の建物により視点場としての景観が遮られている。
<p>自然環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接の中海岸地区においては、砂浜の浸食が著しく、保安林の育成にも大きな影響を及ぼす。 ・ ハマボウフウ、ハマヒルガオ等の砂丘植生が失われつつあり、これが飛砂の害を増やしている。